



まちさ〜ち

- ◆人口:6,623人 ※平成24年9月末時点の統計値
- ◆面積:約0.79km²
- ◆主な施設:田川公園

この目を見て!! 大人も子どもみんなイキイキ楽しそう!!



▲ちぎって丸めて、おいしいお餅に仕上げます♪

田川地域とは

田川地域は昭和30年頃まで、読んで字のごとく田んぼと川に囲まれ、レンコン畑やいちじく畑がある地域でした。戦後、ものづくりのまちへと発展し、田川地域のものづくり企業が結成した「田川親川会」と地域住民が主体となり田川のまちづくりの基盤を築きました。ここ10年はマンションや一戸建てが建設されたことで住・工混在の地域になり、新しい住民の方々が増えてきています。

田川小学校が「鎮守の森」

田川地域には神社がなく、田川小学校を行事のための集いの場である「鎮守の森」として、活動の中心としています。学校と地域が一体となり、校庭開放

や夜間照明など大阪市では常に一番で取り組んできました。主な行事としては、「夕べの集い」と「敬老会」があります。今年の「夕べの集い」はあいにくの雨でしたが、学校と地域が連携したおかげで実施でき、大いに盛り上がりました。

毎年恒例! 12月もちつき大会

田川地域では毎年12月の第3日曜日にもちつきを行います。全町会で630kgのもち米を使い、3日前から水につけ、朝5時から準備を始めます。「ヨイショ」と掛け合い、餅つきを楽しみ、おかわりするほど人気の「ぜんざい」や「きなこ餅」を子ども達に振る舞います。まさに年の締めくくり行事であり各町会の方々が多く集まるので、互いの顔が見える大切な行事です。今年は12月21日(日)に実施予定です。

【田川地域活動協議会】

事務所:田川社会福祉会館
住所:淀川区田川 2-2-26
☎6390-6868



今正会長から

20代の頃から青少年指導委員やPTA会長などいろんな役目をさせていただき良い経験ができました。地域・学校・田川親川会など地域一体となってまちづくりに取り組んでいます。特に今年の「夕べの集い」は雨の中でしたが、廊下を活用して実施できました。まさに田川地域の特徴である地域・学校が一体となり取り組んできたからこそだと思います。これからもその伝統が受け継がれていくことを願っています。



それいけ、まさふみ!

淀川区長 榎 正文

里親を必要としている子ども達がいま

今月号のよどマガ!は、里親(会)の特集でした。淀川区の将来ビジョンでは、「子育てしやすいまち」を掲げています。これは、区内全ての子どもは保護者や家庭の環境、経済状況等によらず健全に育つ権利があり、その実現を淀川区の地域社会がめざし努力する、という思いを込めています。

社会的養育の現状

社会では家庭のあり方が多様になっています。特に、離婚などからひとり親家庭が増えているのが実態です。同時に、様々な事情から親と一緒に暮らすことのできない子どもが増え、大阪市では1,300人になっています。

この子ども達には社会的養育が必要であり、特定の大人と一対一での信頼関係を築くことが、心の成長にとって極めて大事です。そのためには里親養育が必要なのですが、大阪市の里親養育は約11%にとどまっています。これまでも行政や里親会など関係

者が努力を重ねてきましたが、その率は欧米(豪約90%、米約80%など)と比べ極めて低くなっています。

里親制度の課題

他方、担い手である里親認定基準のハードルが高いのではないかと、それゆえに施設型に偏重しているのではないかと、との指摘もあります。9月、東京都子ども子育て会議では明智カイト委員が「東京都里親認定基準」の「家庭及び構成員の状況、項目(5)」の撤廃を求めました(ブログより引用)。ほぼ法律婚をしている夫婦のみを「里親にふさわしい人材」として認定基準にすることは、その他の人材を排除し、要保護児童が養育家庭で生活できる機会を狭めるものだ、との指摘です。

多様化する社会

もはや、里親制度が拡がらず社会的な要請に応えられない状況に手をこまねいているわけにはいきません。また多様化する社会に対しては、固定観念にとらわれずルールを見直し多様な人材に託すことが、子どもの健やかな成長に資すると考えます。区民の皆さまのご理解と、更なる市民参画をお願いいたします。